

ループリックは、「できた・できない」を決める表ではありません。

「できた・できない」で終わらないキャリア教育ループリック作成シート

ループリックは、

「どんな姿を目指すのか」をあらかじめ言葉にし、

活動後の振り返りと次の一歩につなぐための道具です。

点数を付けることだけを目的にせず、

生徒と先生が「どこまでできたか」「次に何を試すか」を共有します。

考え方

3つの役割

- 目指す姿を事前に共有する
- 活動中の行動や言葉を見取る
- 振り返って次の目標を決める

出所：文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」等を参考に、授業で使うループリックの例として吉田正之が整理

まず、授業で育てたい力を一つか二つに絞ります。

基礎的・汎用的能力を「全部評価する表」にしない

この資料では、授業のねらいに合わせて「今回、特に見る力」を絞る方法を提案します。

① 人間関係形成・社会形成能力

- ・人と関わる力
- ・相手を受け止め、協力し、社会とかかわる

② 自己理解・自己管理能力

- ・自分を理解し整える力
- ・自分のよさ・課題に気づき、行動を調整する

③ 課題対応能力

- ・課題に向き合う力
- ・考え、試し、よりよい方法を探る

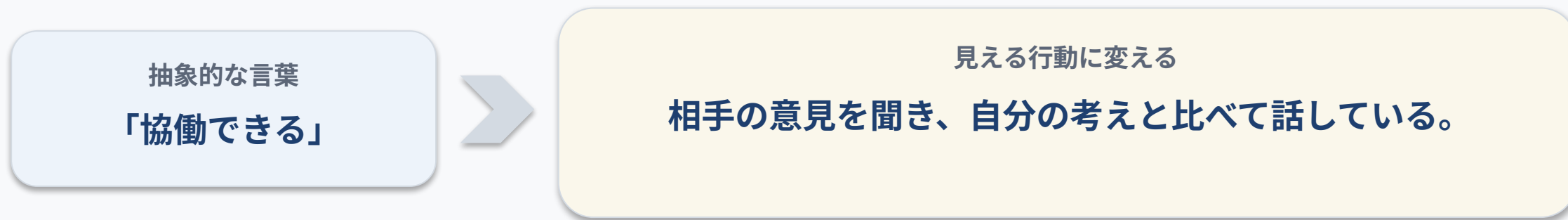
④ キャリアプランニング能力

- ・将来を考えつなぐ力
- ・学び・生活・将来の生き方を結び付けて考える

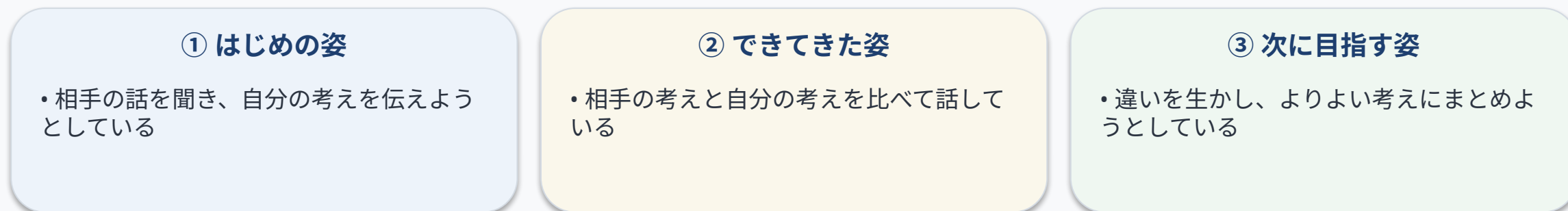
注意：4つすべてを毎時間評価する必要はありません。授業の目的に合わせて、見る視点を選びます。

抽象的な「力」を、授業で見える行動に変えます。

例：人間関係形成・社会形成能力を話し合い活動で見る



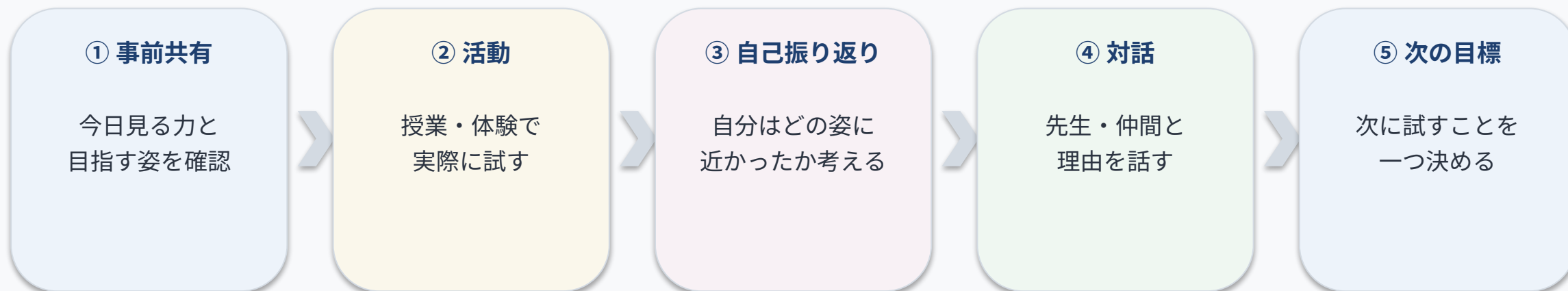
3 段階で表す例



「性格」ではなく、授業中に見える言葉・行動で書くと、生徒にも先生にも分かりやすくなります。

先生だけで決めず、生徒自身の振り返りにも使います。

ルーブリックを「評価の表」から「対話の道具」へ



自己評価を、そのまま評定に置き換えることが目的ではありません。
「なぜそう振り返ったのか」を話し、次の学びを考える材料にします。

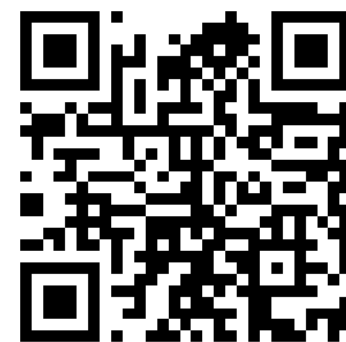
そのまま使える「簡易ループリック例」から始められます。

例をそのまま使うのではなく、自校の授業目的に合わせて調整します

例：話し合い活動 | 人間関係形成・社会形成能力の一場面

見る視点	① はじめの姿	② できてきた姿	③ 次に目指す姿
相手の意見を受け止め、 自分の考えを伝える	相手の話を聞き、 自分の考えを伝えようとしている	相手の考えと自分の考えを 比べて話している	違いを生かし、よりよい 考えに まとめようとしている

※これは文部科学省の公式ループリックではありません。
手引きを参考に、授業相談用の例として吉田正之が整理したものです。



ループリックづくりの相談も
初回 30 分無料

相談窓口：toi.manabi@gmail.com（資料番号を添えて相談できます）